

ミューズ企画展

一人の音楽家



作曲家
吉原 規 (1897-1978) Yoshihara Isamu

♪作曲、演奏・指揮、合唱団育成、音楽の普及・振興に功績
♪黎明期のラジオ放送に関わり放送音楽の発展に貢献

坂東市が生んだ



ハーモニカの名手
間中 勘 (1927-) Manaka Kan

♪日本を代表するハーモニカ奏者として幅広い演奏活動を展開
♪哀愁あふれる音色「間中トーン」でハーモニカファンを魅了

平成28年 3月19日土▶5月29日日

【開館時間】 平日 午前10時～午後6時30分 土・日・祝 午前10時～午後5時

【休館日】 月曜日(祝日の場合はその翌日)、祝日の翌日 ※祝日は開館しています

入場無料

坂東郷土館ミューズ



M・U・S・E

坂東市立資料館 T306-0502 滋城県坂東市山2726

TEL 0280-88-8700・0297-44-0055

<http://www.city.bando.lg.jp/page/dir000060.html>

坂東市が生んだ二人の音楽家

—作曲家・吉原 規とハーモニカの名手・間中 勘—

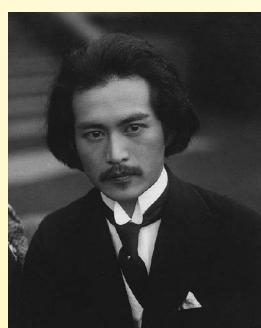


吉原 規（よしはら いさむ 1897 - 1978）

作曲家・指揮者・ピアノ奏者として活躍したほか、大学で教鞭をとり、児童生徒対象の音楽教育・指導にも尽力した。大規模な式典や社歌・校歌・童話劇の作曲・演奏指揮も手掛け、特に戦前戦後のラジオ放送では東京中央放送局 (JOAK・のち日本放送協会 (NHK)) の音楽番組の制作にも携わった。



吉原規が指導し、ラジオ放送で活躍した JOAK 唱歌隊



新進気鋭の若手音楽家時代



レコーディングの指揮をする吉原規



教授として教鞭をとった嘉悦学園の学生たちと吉原規

今日、私たちの身の回りには音楽があふれ、音楽を聴かない日はありません。懐かしき昭和の時代、人々はラジオやテレビから流れる歌謡曲や流行歌を口ずさみ、若者たちは皆で集まって楽器を奏で好きな曲を歌い合いました。人生には常に音楽があり、「歌は世につれ、世は歌につれ」との諺のように、音楽はその時代を映す鏡と言えます。

今回の展覧会では、音楽教育やラジオ放送で活躍した吉原規と日本を代表するハーモニカ奏者である間中勘を紹介します。

それぞれの音楽分野で多大な業績を残した二人の歩みは、大衆に音楽が普及してゆく時代の流れと軌を一にしています。

展覧会を通して、坂東市が生んだ二人の音楽家の活躍を知っていただくとともに、それが音楽一筋に歩んだ生涯に思いをいたしていただければ幸いです。



間中 勘（まなか かん 1927 - ）

日本を代表するハーモニカ奏者として日本各地で幅広い演奏活動を展開。

「間中トーン」と呼ばれる独特的の哀愁あふれる音色は多くのハーモニカファンを魅了し、ハーモニカ用楽曲の編曲、CDや楽譜の出版、ハーモニカ教室・講座での後進の指導を通して、ハーモニカ普及に尽力した。



間中勘とハーモニカの師・佐藤秀廊先生



国際コンクール入賞後、NHKの番組に出演



ハーモニカに囲まれ、練習に打ち込む間中勘

